

大島っ子だより

祈りの花瓶

夏休みに入り、毎日のように熱中症や水難事故のニュースが報道されていますが、保護者・地域の皆さんはご健勝にすごされているでしょうか。そのような中、甲子園大会では長崎県代表の長崎日大高校が1回戦を快勝し、夏休みの楽しみがもう少し続きそうです。

しかし、7月下旬には熊本県で大きな震災も発生しました。被害に遭われた方々にはお見舞い申し上げます。

大島小学校も結構揺れましたが、保護者・地域の皆様に被害等はなかったでしょうか。今朝、子どもたちは元気に登校してきて、安心したところです。

さて、今日は8月9日。日曜日ですが、長崎県内の小中学校にとっては大切な日です。平和集会の校長講話では「祈りの花瓶」を取り上げました。



1945年8月9日、長崎市に投下された原子爆弾は多くの人の命を奪いましたが、その熱戦はガラス瓶なども溶かし、変形させました。それらは「被爆びん」として原爆資料館等に保存されています。

毎熊那々恵さんという長崎市出身のデザイナーが、それを3Dプリンターでスキャンし、陶器で複製したものが「祈りの花瓶」です。

毎熊さんは東京で、8月9日にサイレンが鳴らず、黙祷する人もいないこと、そしてテレビで放送される原爆のニュースも少ないことに驚きました。

被爆三世でもある毎熊さんは「祖母が、被爆者が訴え続けてきた平和への思いが日本国内でも届いてないんだ」と危機感を覚え、「若い世代や世界に、原爆投下の過去について知ってほしい、平和についてもっと考えてほしい」という思いが芽生え、原爆被害の一端を手でさわって実感できる「祈りの花瓶」を作ったそうです。

ウクライナとロシア、イランとアメリカなど、世界ではいまでも戦争が続いています。

子どもたちには、8月6日、9日、15日といった節目に黙祷をささげながら、「平和への思い」「命の大切さへの思い」を受け継いでほしいと思います。

校長講話後には、高学年の子どもたちが戦争中のことをクイズにして発表しました。



2学期の始業式は 9月1日（火）です。

11：40頃に地区別下校の予定です。